

## 京都大学の電気のパワーシフトについて

【ご意見・ご要望】(投稿日:2021年4月23日)

気候変動が深刻化し、地球が危機的な状況になり続けている中で、一つの提案をしたくて意見いたします。

京都大学の施設の電気はどの電力会社の電気を使っているのでしょうか？

石油や石炭などの化石燃料を使った電気を使っているとしたら、再生可能エネルギーを用いた電気に切り替えて欲しいのです。

電力自由化により、現在では消費者は電力会社を自由に選べるようになっています。

化石燃料を用いた発電は二酸化炭素を多く排出し、地球の温度上昇を加速させますが、太陽光や風力などをはじめとする再生可能エネルギーに切り替えることで二酸化炭素排出量を減らす、あるいはゼロにすることができ、地球温暖化を食い止めることができます。

電気を供給してくれる電力会社を切り替えることで、届く電気を再生可能エネルギーを用いた電気にする「パワーシフト」というものが簡単にできます。

多くの教室があり、たくさんの電気を消費すると考えられる大学が用いる電気をクリーンな再生可能エネルギーに切り替えることができれば、持続可能な未来に対して小さいけれど確実な一歩となり、また京都大学が行ったアクションということで大きなインパクトがあると思います。

これからの持続可能な未来を実現するためにはパワーシフトは家庭や会社のレベルで必要な一手であり、ましてや若者の未来を作る教育機関である大学にとってはさらに必要不可欠です。

京都では、持続可能性のある再生可能エネルギーを電源調達を中心あるいは全てとしている電力会社として

- ・グリーンナでんき
- ・たんたんエナジー
- ・テラエネジー
- ・みんな電力
- ・みらい電力

などの電力会社が選択できます。

個人的に調べたところによると、パワーシフトによって電気が不安定になることはなく、またパワーシフトには工事も要らず、電気の値段が上がることもなく、さらに手続きは極めて簡単です。

失うものはなく、かつ気候危機に有効なアクションなのです。より持続可能な未来に向けて、京都大学も1日でも早くパワーシフトを行っていただきたいです。

どうぞよろしくお願いいたします。

【回答】(回答日:2021年5月12日)

(回答部署:施設部、財務部)

ご提案ありがとうございます。

本学の電気の需給契約は、キャンパス間に距離があるため地区毎に締結しており、現在の契約相手方は九電みらいエナジー株式会社、株式会社 F-Power 等です。

本学では、環境配慮契約法に基づき、小売電気事業者の二酸化炭素排出係数や環境負荷低減に関する取組状況等を評価して契約対象事業者を絞り込んだうえで入札を行っており、ご提案いただいた小売電気事業者も含め、資格審査を満たす事業者の参加を認めています。

なお、この評価基準の見直しは、環境省の環境配慮契約法基本方針等に基づいて毎年実施しており、今後も継続していく方針です。